

このたびの植樹におきまして、市内外から1、432人の参加をいただき、無事2万本、7・3ヘクタールの植樹を行うことができました。

これもひとえに、イオン環境財団および岡田理事長、また、協力をいただいた関係者皆さま一人ひとりのおかげです。あらためてお礼申し上げます。

皆さんと楽しく過ごした植樹の時間は、いつもとは違う、格別の楽しさとなりました。

この南島原植樹は、植樹と育樹を合わせ、5年間の計画です。この木々が、枝を広げ、空に伸びていくさまを、来年、再来年もご参加いただき、一緒に見守ってほしいと思います。

南島原市長

藤原 未幸



来年も、再来年もこのすばらしい取り組みに皆さんぜひ参加ください。
~市長~



21世紀は「環境」そして「水と緑の時代」がくると考え、当財団を設立してから、今年で20周年を迎えます。その取り組みのひとつとして、皆さんとともに5年をかけて、木を植え、育てる「南島原植樹」をスタートしました。

第1回となる今回、地元だけでなく、全国各地からたくさんの方々にボランティアとして参加いただきました。ありがとうございます。

本日、皆さんの手で植えた木々が、荒廃したこの土地にかつての自然の森を取り戻すことを心から願っています。

当財団は、今年、COP10が日本で開催されたこともあって、生物多様性の保全とその持続可能な利用に向けて取り組んできました。今後も植樹をはじめとして、「自然」を守るさまざまな取り組みに力を入れていきたいと思っています。

皆さん、力を合わせて自然と水を守っていきましょう。

公益財団法人イオン環境財団
理事長 岡田卓也

荒廃したこの地が、緑あふれる「森」になる。そんな日が一日も早く来ることを、心から願っています。
~岡田~



来年の成長が楽しみ！(45歳)
意外と土って掘れないもんだと思った。(40歳)
一生懸命の高校生を見直した。(40歳)
全国からボランティアが集まっているのがびっくりした。(56歳)
子どもの抱っこで疲れた。(27歳) ↓面白かったよ。(2歳)
添え木の竹をスコップでいただいた。爽快だった！(37歳)
緑が増えるといいな！(43歳)

今日の想いが育っていく

暑かった。(11歳)、難しかった。(12歳)、でも大きくなるのが楽しみ。(7歳)
初めてだったけど、すごく面白かった。(10歳)
充実した時間をありがとう。(61歳)
みんなでやったからかな。あつというまだった。(9歳)
傾斜が辛かった。(45歳)
会場まで歩いた。遠かった。(30歳)でも空気はおいしかった。(50歳)
もう一度来たい。ぜひ来たい。(60歳)
植林初体験！勉強になった。(48歳)
ニホンの環境が良くなる。イイコトですね。(27歳ベトナム)
久しぶりの穴掘り。楽しかった。(48歳)

特集 木を植える 明日を育む ~南島原植樹~

植樹が終了し、苗が風にそよぐ上原。竹の添え木は草刈時に誤って刈らないために設置している。↑



11月21日、南有馬町の上原地区NTT無線塔跡地7.3ヘクタールに市民らが集い、ケヤキやクヌギなど、2万本の植樹を行いました。
公益財団法人イオン環境財団の全面的な協力を実現した南島原植樹。今回はこの「南島原植樹」と、植樹の意味について特集します。

「南島原植樹」は、公益財団法人イオン環境財団と南島原市が協働で植樹を企画し、今回実現したものです。

植樹に先立ち、岡田卓也イオン環境財団理事長が、「今日の森づくりを楽しんでください」とあいさつ。その後、地元の白木野小学校と緑の少年団を持つ見岳小学校の児童らが、同財団のテーマ曲「木を植えて」を元氣よく歌いました。

その後は、あらかじめ決められていた50班に分かれ、簡単な説明を受けると、各自ケヤキやクヌギなどの木を思い思いに植えました。

当日は、市内の参加872人だけでなく、市外からも560人が参加。遠くは青森県から参加している人もいました。

福岡から参加した上田哲史さんは、「久しぶりに汗をかいて、気持ちよかったです。あと、南島原の人と方言でおしゃべりができたのは、よかったです。」

ね」と満足げでした。
藤原市長もスコップを手に奮闘。手際良く穴を掘る様子に、報道陣から「上手ですね」と声がかかるほどでした。

この取り組みは、今回も含め3年間で5万7千本を植え、さらに2年間をかけて、下刈りなどの手入れを行っていく予定です。
森と呼ぶには、まだまだの、本当に小さな苗木たち。この苗木が育つには、これからも皆さんの力と温かい見守りが必要です。
皆さんの協力をよろしく願います。